

H 3 0 仕事納め式

職員のみなさん、1年間どうもお疲れ様でした。

本日をもって今年の仕事納めとなります。そして、平成の世も残り数か月となりました。

平成の30年間を振り返ると、一言で言えば、幸せの形を見出しづらかった時代であったように思います。

平成3年にバブル崩壊が始まり、以後、社会や経済が成熟したわが国では、大幅な経済成長を実現することが難しくなりました。また、市民、国民の価値観が複雑多様化したことに伴い、行政ニーズも複雑多様化するとともに、時代の変化が速くなり、公共セクターに身を置く私たちも、その変化に対して柔軟に対応していくことが求められています。

そのような状況の中、西尾市においては、普通交付税の合併算定替特例の縮減が続き、人口の伸びも鈍化しており、今後も厳しい財政状況が続いていくことが見込まれます。限られた人員、限られた予算の中で、いかに知恵を絞り、必要な行政サービス、市民に喜ばれる行政サービスを提供していくか、これが市政運営をしていく上での根っこになります。

現在、AIをはじめとするテクノロジーの進歩が著しく、私たちの日常生活のみならず、仕事のあり方も今後大きく変わる可能性があります。

AI時代に重要となる能力は、主体性、行動力、企画発想力、創造性、

などと言われており、これらの能力は、都市間競争が激しさを増す中で西尾市が生き抜いていく、地方創生の分野でも重要だと考えられるものです。

職員のみなさんにおいては、ルーティーン業務だけでも大変だとは思いますが、日頃から様々な情報にアンテナを張り、一日の中で5分でも10分でもよいので、自由な着想の中で、これからの西尾市を面白くしていくアイデアを練る時間も創ってみてください。そして、それを積極的に提案してほしいと思います。それが心身のリフレッシュにもなりますし、職員としての資質向上にも繋がります。

また、管理職のみなさんにおいては、そうしたアイデアの中に、これからの時代の市政運営のヒント、地方創生のヒントが詰まっていると認識したうえで尊重し、組織として硬直しない、部の運営、課の運営を心がけてほしいと思います。

結びとして、この1年間における職員のみなさんの日々の頑張りに改めて感謝しますとともに、行政のプロを自認し、来年も市民の期待と信頼に応えられる市政運営を担っていけるよう、チーム西尾市としての協力を改めてお願いします。

それでは、年末年始でしっかりリフレッシュして英気を養い、年明けにはまた元気な顔を見せてもらえればと思います。良いお年をお迎えください。